

マークのコンセプトについて



このマークは、仙台市博物館の代表的な文化財のひとつである伊達政宗所用の「黒漆五枚胴具足（くろうるしごまいどうぐそく）」のかぶとをモチーフに、仙台市の「仙」の字、ミュージアムの「M」の字を組み合わせて「仙台市博物館」を表しています。

また、マークの上部にある月の形はかぶとの前立（まえだて）、下部にある3つの三角形は人であり、人々が寄り添い、力を合わせて文化財を支えている姿を表しています。これは当館の理念である「歴史と文化を未来につなぐ」を表現しています。

この寄り添う人々は、さまざまです。文化財の保存や博物館の運営に携わる館職員、文化財のご寄贈者やご寄託者、博物館のガイドボランティアや友の会の方々、そして、展示や催し等で当館をご利用いただいている皆さま、さらには、これらの文化財を現代まで、何代にもわたり大切に受け継いできたの方々など、言い尽くせないほどにたくさんの方々の手によって支えられ、今の博物館があります。

仙台市博物館はこれからも、皆さまとともに文化財を守り、それにまつわる歴史を伝え、未来につなげていく、このマークには、そのような思いを込めています。

仙台市博物館とともに、このマークも皆さまに親しんでいただけますと幸いです。

「仙」の字

上部の月形 + 下部の三角形の中央 → 「仙」の人偏



下部の三角形3つ → 「仙」の右側の山



「M」の字

下部の三角形3つ → 「ミュージアム(Museum)」の「M」



令和6年2月21日

仙台市博物館